

公民連携で脱炭素イノベーションを推進！ 福島県浪江町と再生可能エネルギーに関する連携協定を締結しました



横浜市は、2050年までの脱炭素化の実現に向けて再生可能エネルギー（以下、「再エネ」という。）の普及拡大に取り組んでおり、これまでに再エネ資源を豊富に有する18自治体と再エネに関する連携協定を締結しています。このたび、産学官連携でエネルギー政策に取り組んでいる**福島県浪江町**と新たに連携協定を締結しました。

本連携協定により、「地域循環共生圏[※]」の考え方にに基づき、再エネの普及拡大による脱炭素社会の実現と、両自治体の地域活力の創出を目指し、相互に連携して取り組んでいきます。

※各地域がその特性に応じた地域資源を生かし、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域と地域資源を補完し支えあうことで、地域を活性化させるための考え方。第五次環境基本計画（2018年4月閣議決定）にて提唱

1 連携協定について

（1）概要

横浜市の再エネの創出ポテンシャルは2050年の市内の電力消費量の約10%と試算され、再エネへの転換に向けて、2019年2月からこれまでに再エネ資源を豊富に有する18市町村と再エネに関する連携協定を締結し、市域外からの再エネの活用に取り組んでいます。

福島県浪江町と横浜市は、東日本大震災を契機とした横浜市職員の派遣などを通じて交流を重ねてきており、このたび本協定の趣旨にご賛同いただいたことから、再エネに関する連携協定を締結しました。

連携協定の締結にあたり2026年6月19日に、折居良一郎^{おりいりょういちろう}脱炭素・GREEN×EXPO推進局長が
大内健太郎^{おおうちけんたろう}浪江町副町長と浪江町役場にて面会しました。



【左】折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長 【右】大内浪江町副町長

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



(参考) これまでに連携協定を締結している市町村

- ・青森県横浜町
- ・岩手県久慈市、二戸市、葛巻町、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町
- ・秋田県八峰町、大潟村、湯沢市
- ・福島県会津若松市、郡山市、いわき市
- ・茨城県神栖市
- ・大分県日出町

(2) 連携内容

浪江町は、なみえ水素タウン構想など産学官一体となった先進的なエネルギー・産業政策を推進しています。同様に公民連携で再エネ普及拡大や脱炭素イノベーションに取り組んでいる横浜市と連携して、脱炭素社会の実現を目指しながら、再エネの活用を通じた地域活性化等の取組を推進するため、以下の事項について、相互に連携をして取り組んでいきます。

- ・再生可能エネルギーの創出・導入・利用拡大に関すること
- ・脱炭素化の推進を通じた住民・地域企業主体の相互の地域活力の創出に関すること
- ・循環型社会の推進に資する地場産業の活性化や新産業の創出に向けた相互協力に関すること

2 浪江町について

(1) 概要

人口：2482人 世帯数：1608世帯（2026年4月末時点） 面積：223.14k㎡

浪江町は、福島県最東端の浜通り中央に位置し、太平洋に面した東側は1年を通して温暖な気候、西側は阿武隈山地などの山々に囲まれた豊かな自然と水源に恵まれた町です。

1000年以上の歴史を誇る国の重要無形民俗文化財「相馬野馬追そうまのまおい しねはごうのまおいさい（標葉郷野馬追祭）」や、国指定伝統的工芸品「大堀相馬焼」等の伝統文化に加え、町の特産品である魚介類（請戸もの）や地酒（日本酒）は、全国でもトップクラスの評価を得ています。また、町民のソウルフードとして親しまれてきた「なみえ焼そば」は、全国的に広く知られているご当地グルメです。

2011年3月11日、浪江町は、東日本大震災・福島第一原発事故により甚大な複合災害に見舞われました。震災から15年が経った現在も復興の途上にはありますが、町一丸となって様々なプロジェクトを推進し、復興への歩みを進めています。

浪江町の概要について、詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.town.namie.fukushima.jp/site/understand-namie/>



次頁あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



(2) 浪江町の再エネについて

震災・原発事故以降、浪江町は、原子力や化石燃料に頼らない再生可能エネルギー事業を推進し、住民生活の中にエネルギーの地産地消を定着させていくことを施策の柱としてきました。

町は、復興が進み将来にわたる帰還人口や産業団地への企業進出等、町の将来図を様々考慮し、まちづくりにおける再エネの活用と相乗効果を具体的に示すため、「浪江町再生可能エネルギー推進計画」の策定(2018年)を行いました。

それに伴い、2020年3月に環境省が推奨する「ゼロカーボンシティ」宣言し、“世界最大級世界有数規模のグリーン水素製造能力”を有する「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」開所(棚塩産業団地内)以降、FH2R由来の浪江産グリーン水素を活用した「水素社会実現の先駆けとなるまちづくり」及び浜通り地方における「水素モデル地域」の構築等、他自治体と連携しながら事業を推進しています。

そして、『なみえ水素タウン構想』では町内における水素の利活用を可視化し、水素製造だけではない「水素が住民生活の中で当たり前に使われる社会」の実現に向け、公共施設への再エネ設備の設置やEV(電気自動車)・FCV(燃料電池自動車)の公用車利用など、再エネを活用したまちづくりに積極的に取り組んでいます。

現在、浪江町では、太陽光発電や風水力発電の整備をはじめ、浪江駅前エリアに建設中の産学官連携施設や利用電力の100%を再エネ電源でまかなうRE100産業団地、耕畜連携・循環型農業を実践する大規模酪農施設など、産学官一体となった産業振興が進んでいます。

また、今年1月には、町も一部出資する地域の新電力会社 株式会社なみえミライエナジーが設立され、町内での自社電力の開発や供給などの電力事業を行うこと*で再生可能エネルギーの地産地消を促進し、浪江町の復興のさらなる加速と地域経済の発展を目指しています。

※2026年4月1日より、14公共施設の電力を株式会社なみえミライエナジーが取次供給する再生可能エネルギー100%電力への全面的な切り替えを実施。これにより、浪江町公共部門における2030年度のCo2排出目標である1,000t-CO₂を前倒しで達成の見込み。(4月15日に行われた設立報告会にて発表)

浪江町の脱炭素に向けた取り組みについて、詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.town.namie.fukushima.jp/site/zcn-hydrogen/>



お問合せ先

循環型社会推進課長 松下 Tel 045-671-2636



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

